令和８年７月６日

大山町議会議長　吉原　美智恵　様

大山町議会　広報常任委員会委員長　浅田　龍太朗

令和８年度大山町議会議員研修報告書

１	研 修 名	広報常任委員会　行政視察
２	日　　時	令和８年７月６日（月）
３	参 加 者	浅田龍太朗、近藤隆博、京カ久子、圓田元気（事務局）
４	研 修 地	三朝町「渓泉閣」
５	研修内容	題目：「読まれる議会広報紙になるための広報クリニック」
６	研修結果又は概要（意見・感想）	１．概要 講師：（一社）日本経営協会　中本　正樹　氏 プログラム １．議会だより　５つのポイント ２．全国入賞常連の事例 ３．各議会だより　個別クリニック
		２．感想 「議会だよりを住民に伝わる広報紙とするためのポイント」をテーマに、議会だより作成の基本的な考え方や全国の優良事例について学んだ。 まず、議会だより作成における５つのポイントについて説明を受けた。紙面は作り手の視点ではなく住民目線で構成すること、見出しや写真を効果的に活用して読者の関心を引くこと、限られた紙面の中で情報を整理し分かりやすく伝えることなど、「伝えたい」ではなく「読みたくなる」を意識した編集の重要性を再認識した。 また、全国広報コンクールで入賞を重ねている議会だよりの事例では、写真や見出し、余白の使い方、紙面全体の構成、目線誘導など、読者が自然と読み進められる工夫が随所に見られた。さらに、各議会だよりの個別クリニックでは、客観的な視点から紙面の課題や改善点について具体的な助言が行われ、継続的な見直しを積み重ねることの大切さを学んだ。 AI の活用については、画像生成技術の進歩に伴い、著作権や利用権などの権利関係に十分配慮する必要があることが説明された。広報常任委員会としても、AI で生成した画像を安易に使用するのではなく、権利関係が明確であることを前提とし、議会広報としての信頼性や公平性を損なわないよう、利用範囲や使用基準などについて検討していく必要があると感じた。 これまで広報紙を作成する上で、住民に分かりやすい紙面づくりを目指してきたが、一方で掲載したい情報が多く、紙面全体の情報量が多くなりがちであるという課題を感じている。情報を充実させることは重要である一方、内容を詰め込み過ぎることでレイアウトが圧迫され、住民に伝えたい情報が十分に伝わらない可能性もある。 今回の研修を通じて、情報を詰め込むのではなく、住民に本当に伝えたい内容を整理し、優先順位を付けながら分かりやすく編集することが、より読まれる議会だよりにつながることを改めて認識した。今後は、見出しや写真、レイアウトを工夫するとともに、掲載内容の取捨選択も意識し、読みやすく、住民に議会活動をより身近に感じてもらえる広報紙づくりに取り組んでいきたい。